



小郡市立小郡中学校

令和7年7月1日

小郡中学校だより 第240号

校長 山本 拓



学校教育目標 ～自ら学び 共に高め合う 心豊かでたくましい生徒の育成～

## 「責任」とはどういうこと？

以前、小学校では、1年生の給食の配膳を6年生が行っていた所が多くありました。しかし、それは現在、減少している傾向にあります。なぜなら、6年生が配膳を行ってしまうと、1年生が何も学べないからです。

自分たちで配膳をすれば、食器によそう量をどう調節するか、適切にみんなに分けていくにはどうするかなどを学ぶことができます。また、自分の役割を果たすことで学級の給食準備がスムーズにいくことや協力しないと限られた時間で準備を終えることができないなどの様々なことを学べるという考え方から、支援は大変であるものの、小学校1年生のうちから配膳に取り組む学校が増えてきているのだそうです。

給食は、単に栄養を補給して、お腹を満たすだけの時間ではなく、「特別活動」という教育活動の時間です。ですから、当然準備と片付けも学びの時間になります。

時々、給食配膳の時間に教室からどこかへ行ってしまい、教室からいなくなる人がいることを聞きます。自分がない間に机に置かれた給食は、同じ学級の誰かが配膳をしてくれていることを想像できる人になってほしいですね。

私たちは日々様々な場面で考え、判断し、行動している。

中学生になると、

自分のことは自分で決めたいという気持ちも強まってくる。

自分は深く考えて判断しているだろうか。

周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されていないか。

自分の行動が

自分や他人にどのような結果をもたらすかということをきちんと考えているか。

どのような小さい行為でも、

自らを考えて、自分の意志で決定すれば、

それに対して責任をもつという自覚が芽生える。

その自覚が、誠実に、人間としての誇りを持って

生きることを支えてくれる。

「私たちの道徳」より

「責任」という言葉は、私たちの学校生活の中でよく遣われます。自分の行動が自分や他の人にどのような結果を与えるのかを考えることが「責任をもつ」ことの第一歩かもしれませんね。

## 小中合同地区懇談会へのご参加、誠にありがとうございました！

6月24日(火)～26日(木)に各会場で小中合同地区懇談会が開催されました。大変お忙しい中、ご参加いただいた保護者のみなさまをはじめ、区長のみなさま、地域のみなさまに心より感謝申し上げます。

本年度の地区懇談会のテーマも各地区で決めて、情報交換や意見交流が行われました。今年度は、各地区で生徒も多数参加をしてくれて地区懇談会を盛りあげてくれたことをうれしく思います。生徒たちが安心・安全な生活を送ることができているのは、私たちの見えないところで地域の方々がご支援いただいていることを再確認できる場になりました。支えていただいていることは、私たち教職員にとっても大きな励みになっています。素敵な場をつくっていただき、ありがとうございました。



### 「反対意見に耳を傾ける」～人として成長する方法～

私たちは日々、家族や友だち、学校、地域の中などで、多くの意見や考えに触れながら生活しています。他の人の意見や考え方に触れる中で、自分と同じ共感できる意見があれば、自分と異なる意見や、真っ向から反対の意見もあると思います。反対の意見に耳を傾けるというのは簡単なことではありません。しかし、それが人として成長する鍵だと言われています。

○新しい視点を得ることができる

反対意見を聞いたときに感情的に反応するのではなく、反対意見を聞くことで、自分が知らなかった情報や視点に触れることができます。自分の意見に反対する人が示す事実の中から、より広い視野を持つことができます。

○思考力が鍛えられる

反対意見に耳を傾け、それに対する自分の意見を整理し、再び相手に伝えることは、自分の思考力を鍛えることになります。どう説明すれば相手に伝わるのか、自分の意見のどこを修正すればよいのかを考えていく中で、論理的な思考が身につきます。

○人間関係を深める

意見が異なる相手にも敬意を払って、話を聞く姿勢を持つことが信頼関係につながります。「この人は、自分の意見をちゃんと聞いてくれる」と感じてもらえば、意見が違ったとしてもよりよい関係を築く方向に進むものです。また、相手に質問を投げかけてみることで対話が深まり、自分が知らない情報を得ることができるかもしれません。「自分の意見が間違っているところがあるかもしれない」と感じたらそれを認める勇気も大切です。自分の考えを修正する柔軟性を持つことも、成長することにつながります。

自動車やオートバイ、船舶等を生産する世界的企業の本田(ホンダ)技研工業株式会社の創業者、本田宗一郎さん(1906～1991)は、かつて自分とは異質でいつも対立意見を言う、藤沢武夫さん(1910～1988)を副社長にしていたのは有名な話です。

本田宗一郎さんは、反対意見に直面したとき、「この意見から何を学べるだろう？」と考えることで、それが自分自身の成長になり、組織をより良いものにしていく力になるということが分かっていたのだでしょうね。

